

国際連合が求める人材

～ 国連が求める人材プロフィール・ 国連人事部の基準の紹介と解説～

元国連本部図書館勤務

ガインズ紀子

「講演の第一部では、自身が1983年に国連の専門職員になった経過を説明した。

まず、当時も今も職員数低迷が続く国連の中の日本の立場がある。私が日本人であり、国連で専門職員とみなされる修士以上の学位を持ち、図書館での経験があったことが採用に繋がったのだと思う。

私が悩まず大学院進学を実行できたのは、アメリカの開かれた大学事情のおかげである。

私は二度の面接だけで採用決定になったが、現在は職員が皆無か過少な国を対象に行なう専門別の競争試験に合格する必要がある。因みに、2009年に日本は国連事務局に111人の専門職員を有したが、分担金に見合う数は約三倍の300人程。私個人の見解だが、国連機関で働きたい人は、希望する専門が強い国の大学院で修士課程を修めるのが一番の近道だと信じる。アメリカの場合は、学生ローンなどでお金を借りてでも修士を取得してしまうのがお勧めだ。

第二部ではインターネットで自由に見れる **UN Competency Development: Practical Guide** に基づいて、国連が求める人資源のプロファイルを紹介。Guide は中核的な三つの価値観(Integrity、Professionalism、Respect for Diversity)を柱に、八つの技量・能力(Competencies)を揚げ、各々の行動指標を明示している。清廉潔白で、仕事に誇りを持ち、国籍、文化を異にする人間とうまく交わることをまず要求する。加えて、コミュニケーション、チームワーク、企画構成力、説明責任、クライアント オリエンテーション、創造性、技術的認識、継続学習の中から、仕事に必要な特定のが技量・能力が求められる。採用も昇進も同じ価値観と技量・能力が試される。

将来国連を視野に入れている若い世代に三つの情報源を紹介したい。

まず前記の **UN Competency Development: Practical Guide**.

次にインタビュー形式で日本人職員の熱い思いを伝える "国連職員 Now!"

そして国連事情に明るくなれる"UN Wire." 是非お試しあれ。」

以上